

「essay」

福永聖和

あらすじ

東京で演技教室を開くひろしは8月に実家に帰省した。

そこで夏休み中の姪っ子れいなに夏休みの宿題である読書感想文の書き方を教えてほしいと頼まれる。

れいなは両親が離婚し、母親と暮らしている。

母と娘の問題に巻き込まれた。

ひろしはれいなに読書感想文の議題として一冊の本を渡す。

○東北新幹線 車内 午前

帰省客で混む車内。

半袖のシャツを着たひろし（45歳）は座席で本を読んでいる。

ひろしの隣は中年の男性、席を挟んで小学生の子供とその母親が座っている。

三人は親子だと会話の様子からわかる。

子どもが騒ぎ、そちらへ目をやるひろし。

中年男性が軽く頭を下げると、大丈夫ですよと会釈を返すひろし。

まもなく仙台駅へ到着するというアナウンスが流れる。

車窓を見るひろし。

#### ○仙台駅 新幹線のホーム 午前

七夕の飾り付けがされてホームも七夕祭りムード。

新幹線が止まり、人が降りてくる。

その中に東京のひよこ（お土産）を持ったひろしが降りてくる。

空を見上げると今にも雨が降り出しそうな曇り空。

2022年 8月5日

ACT1

○仙台市内の市営住宅（佐奈の自宅）の子供部屋 午前10時

窓は締め切っており、カーテンレールに風鈴が吊るされている。

風鈴は一切音を鳴らさない。

薄暗い部屋。

扇風機がつけっぱなし。

脱ぎっぱなしの服、机の上には出しっぱなしの夏休みの宿題、散らかし放題の乱雑な部屋でれいな（14歳）はタオルケットだけをかけて寝ている。

足音が聞こえて母親（佐奈40歳）が襖を開く。

佐奈：何時だと思ってるの！早く起きなさい！

寝返りをうちタオルケットを頭まで被るれいな。

佐奈：兄さん帰ってくる日だよ！

更に寝返りをうつれいな。

佐奈：早く起きてご飯食べちゃいな。兄さんに笑われるよ。

ピシャッと襖を締める佐奈。

足音が遠ざかっていき、暫しの間。

目ぼけたまま目をこすり起き上がるれいな。

スマホでメッセージを確認するとフラフラ立ち上がり部屋を出ていく。

机の上の「読書感想文」と題名を書いただけの白紙の原稿用紙がアップになる。

## ACT2

○同日 佐奈の自宅 洗面所 午前

着替えを済ませたれいながメイクをしている。

通りかかる佐奈。

佐奈：どこか行くの？

れいな：友達と前夜祭に。

佐奈：雨降りそうだよ。

れいな：約束してるの！

ただいまと玄関から声。

佐奈：兄さんだ！

パタパタと足早に玄関に行く佐奈。

佐奈を冷めた目で見るといいな。

### ACT3

○同日 佐奈の自宅 玄関

開けっ放しの玄関からひろしが顔をのぞかせる。

ひろし：ただいまー。

パタパタと駆けつける佐奈。

佐奈：おかえりー。

ひろしは靴を脱ぎながら。

ひろし：こっちも暑いな。

佐奈：東京よりは涼しいんじゃない？

ひろし：いや、変わらないよ。元気だったか？

佐奈：なんとかね。

ひろし：れいなは？

佐奈：出かけるって。全然言うことかなくて。

二人は廊下を歩きながら。

ひろし：今日は前夜祭だもんな。

佐奈：兄さん帰ってくる日だって言ってたのに。

ひろし：そういう年頃なんだよ。

先に歩く佐奈。

佐奈：冷たいの飲む？

ひろし：あっこれ。

佐奈にお土産を渡す。

佐波：じいとばあ、喜ぶわ。

先に足早に奥へ入る佐奈。

洗面所の前を通りかかるひろし。

ひろし：おう、久しぶり。

れいな：兄さん。

台所から佐奈の声。

佐奈：おはようでしょー！

顔を見合わせ苦笑いする二人。

ひろし：出かけるのか？

れいな：友達と。

ひろし：花火観に行くんだろ？

れいな：うん。

ひろし：気をつけて行けよ。

れいなを軽く撫でるひろし。

少しはにかむれいな。

れいな：わかった。

ひろしは奥に入ろうとする。

れいな：兄さん。

ひろし：どした？

れいな：読書感想文教えて。

ひろし：いいよ。

れいな：ありがとう。

洗面所から出ていっくれいな。

見送るひろし。

#### ACT4

○同日 佐奈の自宅 仏壇のあるリビング

ひろしは仏壇に向かい線香を上げて手を合わせる。

台所から麦茶を運んでくる佐奈。

佐奈はテーブルに麦茶を置くと、ひろしは仏壇の前からテーブルに移動する。

佐奈：仕事の調子はどう？

ひろし：あんまりだよ。

佐奈：良い人いないの？

ひろし：良い人？

佐奈：兄さんもいい歳じゃない。支えてくれるような人いないのかなと思って。

ひろし：……。

ひろし回想

女：いつまで待てばいいの？

ひろし：今は……無理だよ。

女：嘘つき。

ひろし：嘘じゃない。この仕事で食っていけるようになるまでは――

女：嘘よ！一緒になる気なんかなくせに！

ひろし：違う。

女：違わない！愛してないならそう言ってよ！

ひろし：……………。

女：そう…。

女は部屋を出ていく。

れいなが支度を終えてリビングに顔を出す。

佐奈：遅くならないようにね。

れいな：うっさいな。

佐奈：はいでしょ。

ひろし：気いつけてな。

れいな：はい、いってきます。

佐奈：兄さんには猫かぶって。

れいな：いーだ！

佐奈：れいな！

ドタバタと玄関に走っていきれいな。

佐奈：傘はー？

れいな：いらなーい！

佐奈：誰に似たんだか。

ひろし：おまえだろ。

ACT5

○同日 南仙台駅前

入口で高校生の男が立っている。

時折スマホを見ている。

待ち合わせのよう。

男がれいなの方を見つけ手を振る。

れいな：待った？

男：オレもいま来たところ。

れいな：行こっか。

二人は手を繋いで改札口へ入っていく。

## ACT6

○同日 佐奈の自宅 リビング

すっかりメイクも終わり、ハンドバックや車のキーを用意して、どこかへ出かける支度をしている佐奈。

佐奈はスマホにメッセージが届き、支度をしながら返信を打つ。

ひろしは座ってテレビの高校野球を観ている。

ウーという試合開始のサイレンが流れる。

ふとひろしはベランダに吊るされた風鈴を見る。

ひろし：今年は育英、優勝候補なんだよ。

佐奈：野球って退屈じゃない？

ひろし：野球は奥深いよ。

佐奈：そんなもん？

ひろし：オレも野球選手になりたかったな。

佐奈：……買い物に行ってくるけど、今日の夕飯なににしようか？

ひろし：任せるよ。

佐奈：じゃあおくずかけにしようかな。

ひろし：じいがよく作ってくれたな。

佐奈：れいなも帰ってきてから温めて食べれるし。兄さんはどうする？家で待てる？

ひろし：お盆までいけないから墓参りに。遅くならないようにするよ。

再び佐奈のスマホにメッセージが入り、それを見る佐奈。

佐奈：送っていいか？

ひろし：久しぶりに仙台をぶらついてみるよ。

佐奈：じゃあ先に出るから、戸締りよろしくね。

ひろし：わかった。

佐奈：いってきます！

ひろし：運転気をつけろよ。

佐奈：はい。

パタパタと出ていく佐奈。

苦笑いするひろし。

## ACT7

○同日 イオンモール名取エアリ フードコート

夏休みに入り、賑わっている。

フードコートの隅のテーブルでアイスコーヒーを飲む中年の男と佐奈。

年齢不詳、職業も不詳といった感じの中年男性。

佐奈：夏休みのうちに一度うちに来てよ。

中年：どうして。

佐奈：どうしてって娘にも会ってもらいたいだよ。

中年：突然行ったら迷惑だろ？

佐奈：迷惑だなんて。

中年：お前はよくても娘さんが嫌がるだろ。娘さんには言ったの？オレのこと。

佐奈：まだけど……。

中年：難しい年頃なんだから、言ってからの方が良いよ。嫌われに行くようなもの  
ろ。

佐奈：……。

中年：ちゃんとさ、話をしてみてもうしなよ。

中年男は立ち上がる。

佐奈：どこ行くの？

中年：仕事が入ったんだ。

佐奈：そんなこと言ってなかったじゃない。

中年：急に呼ばれてさ、オレも行きたくないんだけど断りきれなくて。この埋め合わせはまた今度するよ。

佐奈：そんな。

中年：また連絡するから。

中年男性は足早に去っていく。

不満顔でコーヒーを飲む佐奈。

中年男性は少市離れたところで電話をかける。

中年：ゆりちゃん。今から行くよー。

すれ違う中学生位の女の子達。

女の子1：今のおじ、キモくね。

女の子2：アレが親だったら自殺するっす。

席に座る佐奈を見つける中学生。

女の子1：あれ、れっちゃんのママじゃね？

女の子2：ホントだ。

後ろを振り返り、顔を見合わせる女の子達。

女の子1：ま？

女の子2：ま？

二人は佐奈に近寄り声をかける。

女の子1：こんにちは！

佐奈：しゅうちゃん！

女の子2：ゆうちゃんもいるっす。

佐奈：いつもれいなのことありがとね。

ゆう：友達だから当たり前っす。

佐奈：二人とも今日は前夜祭じゃないの？

しゅう：いかないです。

ゆう：男がいない私たちは二人で遊んでっす。

佐奈：れいなと一緒にじゃないの？

ゆう：全然っす。

佐奈：三人で前夜祭行行って出てっただけど…。

しゅうは何かをさとる。

ゆう：今日は会ってないっすよ。

しゅう：ばか！この後一緒に行くんですよ！

佐奈：……ゆうちゃん。

ゆう：はい！

佐奈：ホントのこと教えてくれる？

ゆう：それは……。

しゅう：女同士の友情があるかられっちゃんママでも言えないっす！

佐奈：しゅうちゃん！……二人ともちょっと座って。

しゅうとゆうは座り顔を見合わせる。

しゅう：ま？

ゆう：ま？

佐奈：ま！

ACT8

○同日 仙台市内 幸町付近のバス停

バス停にバスが停車し、乗客を乗せて走り去っていく。

バスが通り過ぎると紙を手にしたひろし。

見上げると市営住宅が見える。

ひろしが住宅の駐車を横切り、住宅に入ろうとすると、客を乗せてないタク

シーが止まる。

タクシーの窓が開くと、運転手がひろしに声をかける。

運転手：ひろしか？

ACT9

○同日 仙台市内 ファミリーレストラン店内

窓側の席にひろしと運転手は向かい合って座っている。

運転手は肥満体型でお手拭きで顔の汗をぬぐっている。

汗を拭い終わると少し他人行儀に、気を使いながら話し始める。

運転手：久しぶりだな。

ひろし：うん……。

運転手：今なにやってるんだ？

ひろし：東京で…演技教室やってるよ。

運転手：教えてんのか？

ひろし：まあね…父さんこそ、タクシー乗ってたんだね。

運転手：気楽でいいよ…母さんには会ったのか？

ひろし：再婚して、子どもが生まれてからは会ってないよ。

運転手：そうか……。

ひろし：……奥さんとはうまくいってるの？

運転手：出ていかれたよ。

ひろし：……。

運転手：バチが当たったんだろうな…お前と佐奈がいたのに、女房子供ぶん殴って、

好き勝手なことして…母さんにもお前たちにも悪いことをした……。

ひろし：昔のことだよ……。

運転手：……すまなかった。

ひろし：……。

運転手：お前、結婚はしてないのか？

ひろし：……父さんは結婚するまで音楽やってたんでしょ？結構いいとこまでいったって。

運転手：誰から聞いた？

ひろし：再婚する前の母さんから。

運転手：……。

ファミリーレストランの窓を雨が叩く。

## ACT10

○同日夜 仙台市内 佐奈の自宅

玄関が開き、れいなが帰ってくる。

雨に濡れている。

れいな：ただいまー。

れいなは雨を払いながら、廊下を歩いてくる。

れいな：ただいま。

リビングにひろしと佐奈が座り、佐奈はテレビを観ていて、れいなの声にも振

り向かない。

ひろし：おかえり。

れいなは雰囲気が違うことに気づく。

れいな：どうしたの？

佐奈：どこに行ってたの？

れいな：前夜祭っていったじゃん。

佐奈：誰と？

れいな：しゅうちゃんとゆうちゃー

佐奈：今日イオンでしゅうちゃんとゆうちゃんに会ったの。

れいな：……。

佐奈：誰と一緒にだったの？

れいな：誰とでもいいじゃん！

佐奈：誰と一

れいな：ママだって好きなことしてるじゃん！

佐奈：れいな！

れいな：自分だって男と会ってるくせに！

佐奈：そんなことー

れいな：嘘つかないでよ！知ってるよ、わたし。仕事の帰りに男の人と会ってること！

佐奈：それは、あなたにもー

れいな：聞きたくない！ずっと我慢してた。パパがいなくなって淋しいんだろうなって！姉ちゃんもパパと行っちゃったから寂しんだろうなって。私はずっとママと居てあげるんだって思ってた！

佐奈：……。

れいな：わたしだって、わたしだって、したいことある！

佐奈：……。

れいな：聞いてくれないじゃん！そんなに男が欲しいならそいつと行けばいいじゃん！私が邪魔ならパパと姉ちゃんみたく、私のこと捨てていけばいいじゃん！

思わず佐奈はれいなに手をあげる。

ひろし：佐奈！

れいな：ママなんて嫌い！大嫌い！

佐奈は外に飛び出していく。

佐奈：れいな！

佐奈はれいなを追いかけようとするが、ひろしが止める。

ひろし：オレが行くよ。

ひろしが外へ向かう。

## ACT11

○同日 夜 佐奈自宅付近のコンビニ

れいなは頬を押さえながら、コンビニの軒下で雨宿りしている。

ずっと地面を打つ雨を見ている。

ひろしがれいなを近づけ静かに近寄る。

ひろしは灰皿があることを確認してタバコに火をつける。

ひろし：風邪ひくぞ。

れいな：いいよ、別に……私ってみんなに迷惑かけてばかり…。

ひろし：実はさ、今日オレも内緒である人に会ってきたんだ。

れいな：だれに？

ひろし：兄さんの父さんに…れいなのおじいちゃんだな。

れいな：……。

ひろし：父さんは昔音楽やってて良い線いってたらしい。

れいな：…。

ひろし：でもオレが母さんのお腹にできて音楽を辞めたんだって。

れいな：…。

ひろし：きっと、音楽続けたかったんだらうなって、こいつさえできなければって思  
ったんじゃないかな。

れいな：そんなことないよ。

ひろし：そういう気持ちなんとなくわかるんだ。オレも今結婚して演劇をやめたら…

…同じことしちゃうんじゃないかって。

れいな：兄さんはそんなことしないよ。

ひろし：オレも佐奈も小さい時に母さんと父さんが離婚してじいとばあに引き取られ  
てな。よくわからないんだ。

れいな：何が？

ひろし：オレは生まれてきても良かったのかって。そんなオレが結婚なんかして奥さんを幸せにしてあげれんのかなって。

れいな：できるよ。

ひろし：…だから聞きに行ってきたんだよ。

れいな：……。

#### ひろし回想

ひろし：父さんは音楽を続けたかったんだろ？

運転手：未練が無かったかって言ったら嘘になるな。

ひろし：邪魔だった？

運転手：……お前が俳優になるって東京に行ったって聞いた時……嬉しかったな……

蛙の子は蛙なんだって。

ひろし：親父…。

運転手：オレが最後までやれなかったことを息子がやってくれるなんて。今のお前を

みてれば、鳶が鷹を産んだわけじゃなかったみたいだが……。

ひろし：……。

運転手：お前とキャッチボールしたことまだ覚えてるよ……お前は小学生のくせに縦に割れるカーブを投げてな…お前に野球を続けさせてたらって…今でも思うんだ。

雨が降り止み、ひろしは立ち上がって空を見上げる。

ひろし：あいつも…佐奈もお前のこと大事なんだと思うよ。

れいな：……。

ひろし：そろそろ帰るか。

れいな：…。

ひろし：読書感想文も書かなきゃだしな。

れいな：考えてくれてたの？

ひろし：帰ったら本渡すから、まず読んでみな。

れいな：うん！

ACT12

2022年8月6日

○仙台市内の市営住宅 佐奈の自宅 昼 晴れ

窓を開けリビングでタバコを吸うひろし。

タバコの煙がゆるい風にふかれベランダへ出ていく。

れいなが廊下からリビングに顔を覗かせる。

れいな：ママは？

ひろし：仕事行ったよ。

れいな：本読んでみたんだけど…。

ひろし：どうだった？

れいな：…難しいけど……これ幽霊の話？

ひろし：だれが？

れいな：お父さん。

ひろし：どうしてそう思ったの？

れいな：この人、戦争で…原爆で死んじゃったんでしょ？

ひろし：そうだね。

れいな：だから…。

ひろし：この人、どこから出てきた？

れいな：押し入れの中から。

ひろし：この人が幽霊だったら、なんで雷がひかって怖がってるかわいい娘にさ、すぐに大丈夫だよって言ってあげなかったの？

れいな：家の下敷きになって死んだから地縛霊なんじゃない？

ひろし：じゃあさ、地縛霊でそこから動けないなら娘が働いてる会社でいい感じの男の人がいることをなぜ知ってるのかな？

れいな：それは……。

ひろし：意地悪で言ってんじゃないんだよ。みんなれいなみたいに読む人が多いんだよ。この人は幽霊で娘を心配して出てきたって……でもさ、ホントかな？

れいな：兄さんは違うと思うの？

ひろし：兄さんは、違うと思うなー。

れいな：それを教えてよ！

ひろし：……このお父さんはどこから出てきたの？

れいな：押し入れの中。

ひろし：押し入れって何するところ？

れいな：……。

ひろし：ちょっとおいで。

ひろしはれいなのお部屋へ向かう。

ひろし：開けて。

れいなが部屋の襖を開く。

れいなのお部屋は相変わらず物がたくさんあって乱雑。

ひろし：この部屋を綺麗にしようとしたらどうする？

れいな：片付けるよ。

ひろし：どうやって。

れいな：服はハンガーにかけて、本は本棚に入れて。

ひろし：入らないやつは？

れいな：押し入れにしまおう。

ひろし：そう、押入れにしまうんだね。

れいな：……。

ひろし：お父さんはしまうところから、しまっている場所から出てきたの。

れいな：……。

ひろし：れいなのお父さんにはなにが入ってるの？

ひろしは押入れを開こうとする

れいな：やめて！

ひろしの腕を掴み、れいなのは押入れを見つめている。

## ACT13

○同日 れいなのお部屋

れいなのは部屋の中を見渡し、片付けを始める。

服を綺麗にたたみ、机の上を片付けていく。

埃っぽいのか窓を開ける。

れいなのは振り返り押入れに近づき襖を開ける。

襖を開けると押入れからは色んなものが落ちてくる。

幼稚園の作文や小学校の卒業アルバムなど。

れいなは幼稚園の時に書いた絵を見る。を読む。

太陽の下、父親と母親、姉、れいなが四人で仲良く笑っている。

絵を置き、写真（アルバム）を見ると小さい頃のれいなと姉が海水浴に行っている姿、夜の海岸で姉とれいなと父親が花火をしている姿が写っている。

れいながその写真を見ていると、窓のレースのカーテンが揺れ風が部屋に入り、風鈴の音が聞こえる。

ACT14

2022年8月7日

○仙台市内を走る車。

ひろしが運転し、助手席に佐奈、後部座席にれいな、しゅう、ゆうが乗って楽しそうに話している。

ひろしが運転席の窓を開けると風が入ってくる。

れいな、しゅう、ゆうは窓から見える海岸の景色を眺めてはしゃいでいる。

## ACT15

○同日 仙台市内 海水浴場 昼

れいな、しゅう、ゆうは水着に着替えて波打ち際へ走っていく。

戻ってきた三人に無理やり引っ張られるひろし。

洋服のまま、しゅうとゆうに押されて海に入りずぶ濡れになるひろし。

砂浜でそれを見て笑い転げる佐奈とれいな。

佐奈とれいなは目を合わせて、もう一度大笑いする。

## ACT16

○同日 仙台市内 海水浴 夜

昼間と違い人がいない砂浜で、五人は花火をしている。

ふざけるしゅうとゆうとれいな。

その様子を少し離れた所で写メに撮る佐奈。

ひろしも吹き出し型の花火に火をつけて離れる。

花火の光が佐奈とれいなを照らす。

ひろし、しゅう、ゆうは花火で遊んでいる。

少し離れた所にれいなと佐奈が座って三人の様子を見ている。

れいな：……ママ、酷いこと言ってごめんなさい。

佐奈：私こそ、叩いてごめんね。

れいな：いいの、私が悪かったから…。

佐奈：…。

れいな：ママのこと大嫌いなんてウソだよ。

佐奈：わかってるわ。

れいな：……ママのこと大好き。ママとずっと一緒にいたい。

佐奈：私もれいなのが大好き。

れいな：……あのね……。

佐奈：…なに？

れいな：……冬休みに姉ちゃんとパパに会ってきたい。パパとママが離婚して神奈川

に行ってから、ずっと思ってたの。私はいない子だったのかなって。

佐奈：そんなことない。

れいな：知ってる。でもちゃんと二人に会って二人の口から聞きたいの。

佐奈：……。

れいな：…ダメ？

佐奈：…良いわよ……でも……帰ってきてね。

れいな：当たり前じゃん！

佐奈はれいなをやさしく撫でる。

れいな：帰ってくるよ！私のいる場所はママの隣だもん！ママのこと大好きだもん！

れいなはしゅうとゆうのそばに戻る。

佐奈は優しく見守る。

ACT17

2022年 8月9日

○仙台市内 佐奈の自宅 昼

玄関に向かう廊下を歩くひろし。

その後ろにはれいな。

ひろし：感想文読んだよ。

れいな：どうだった？

ひろし：よく書けてたと思うよ。

ひろしは廊下を歩きながられいな部屋を見ると綺麗に片付けられている。

窓が全開で部屋に風が入り、吊るされた風鈴が音を鳴らしている。

佐奈の家の玄関に荷物を置き、靴を履いているひろし。

その後ろで寂しそうにれいなが立っている。

れいな：もう帰るの？

ひろし：新幹線の切符がこの時間しか空いてなかったんだよ。

れいな：ママが帰ってくるまでいればいいのに。

ひろし：また来るよ。冬にこっちに来るんだろ？

れいな：うん。なんかしゅうちゃんもゆうちゃんも来たいって言ってたけど…。

ひろし：いいよ、狭い部屋で悪いけど。

れいな：やったあ！二人に言っとくね。

ひろし：うん。

れいな：……あのさあ…。

ひろし：どうした？

れいな：言ってもよかったのかなあ。

ひろし：良いに決まってるじゃん。

れいな：ママ心配してたから。

ひろし：ちゃんと言えて偉かったと思うよ。

れいな：ホント？

ひろし：なにも悪いこと言ってないよ。

れいな：うん。

ひろし：れいなは悪くない。

れいな：…。

ひろし：お前はなにも悪くない。

れいな：兄さん。

れいなを撫でるひろし。

## ACT18

○仙台駅 東口 宮城野通り

仙台駅まで真っ直ぐ続く宮城野通りを荷物を持ち歩くひろし。

ひろしはスマートフォンを取り出し電話をかける。

ひろし：もしもし、オレだけど。これから帰るところ。うん。あのさ、帰ったら会えるか？何の話かって？これからについてお前ともう一度話したいと思って。うん、わかった。お土産買って買えるよ。はい、じゃあまた。

電話を切り、仙台駅へ向かって足早になるひろし。

駅まで真っ直ぐな道を歩いていく。

## ACT19

○仙台市内 佐奈の自宅 後日

誰もいない部屋。

綺麗に整理整頓されている。

机の上に丁寧に折りたたまれた原稿用紙と本が置かれている。

本の表紙がアップになる。

本の題名「父と暮せば」

遠くからテレビのアナウンスが流れてる。

「仙台育英、夏の甲子園初優勝です！

甲子園の優勝旗が白河の関を越えました！

歴史が変わりました！」

レースのカーテンが風を受ける。

綺麗な風鈴の音が鳴る。

End